

# 妙安寺だより 371

## ◆新住職誕生 前住職はへ

昨年12月に住職を交代、その後、名義の変更などを済ませ、書類上は本年1月より新住職として行動を開始。正式には、身延山において、年4回（4月・6月・10月・翌年1月）の住職認証式に総代1名以上同伴の上出席して認証式にまなければなりません。

2月に、総代世話人会を開き、畑治八さんにお願ひし、同伴してくようになりました。

皆さんと身延山参拝を兼ねてと思っておりましたが、畑さんの仕事や勤めの関係上、4月の認証式に出席することになりました。ここに名実ともに新住職が誕生いたしました。

なお、来年5月に、前住職の退山・新住職の入山のを行なう予定です。

## 水のない所に 蚊はたたぬ

神経を逆なでする不愉快事は、寝込みを襲う蚊の羽音は最たる一つだ。もうろうとして聞き、見当をつけて頬のあたりをたたくが、まず失敗に終わる。

清少納言の「枕草子」に「にくきもの」として、『ねぶたしと思ひてしたるに、蚊の細声にわびしげになのりて、顔のほどに飛びありく』。そして『羽風さへ、その身のほどにあるこそ、いとにくけれ』小さいなりにまで送ってよこすのがとても憎らしいと。

しつこさに負けて、刺されることもあったが、デング熱やマラリアなどの病の役なのを忘れがちである。空き缶や植木鉢の皿など、身近な「水たまり」をなくしてボウフラの住み家を減らす。

蚊になってから退治するより効果的らしい。また、ことわざ辞典には「にボウフラがわく」と、酒を早く飲むように勧める表現がある。おほどの水があればするゆえの俗言だろうか。東京都は「水のないところに 蚊はたたぬ」を標語にする。（平成27年6月8日 天声人語より）

デング熱やマラリアなどの病原菌を持った蚊は、輸入材などにれてやってくる。

お寺でも、墓地の花立て、水盤などにボウフラが発生。各個人の家では仏壇の花立の水の中に発生することがあります。また、冷暖房により、家の中が住みよい気温などで、一年中蚊の騒ぎとなる場合が多いので注意しましょう。